

ネオニコチノイド系残留農薬自動分析装置

～蜂群崩壊症候群の犯人は誰だ～

中部大学 応用生物学部 教授 山本 敦
東海光学株式会社 加藤祐史、東海林秀典

▶〈関連ページ〉12ページ

狙い 蜂群崩壊症候群で話題となったネオニコチノイド系農薬のうち、世界的に使用量の最も多いイミダクロプリドに限定して簡易迅速分析を可能とする装置を開発する。

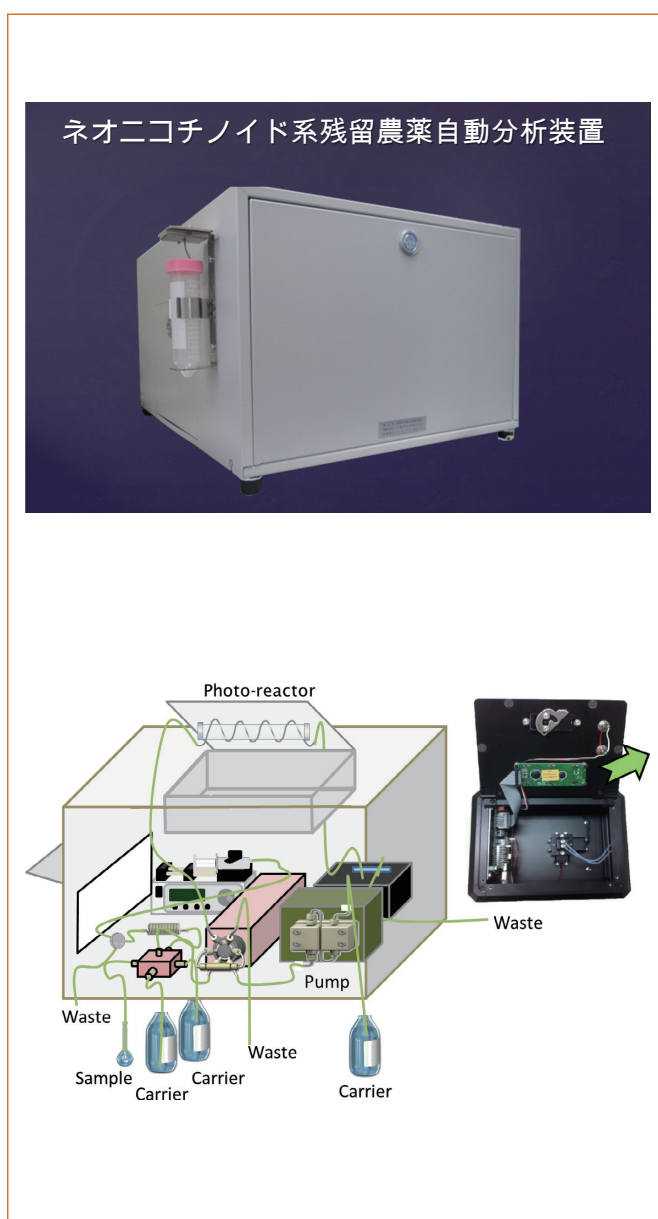
用途 ネオニコチノイド系殺虫剤は哺乳類に対する毒性が低いため、近年有機リン剤に代わって多用されている。中でもイミダクロプリドは各種農産物に対して高い使用基準値が設定されている。ネオニコチノイド薬剤は親水性である。本装置は、水抽出試験溶液を使ったイミダクロプリドのスクリーニング法に適している。

特長

- イミダクロプリドの光誘起発蛍光化と選択的吸着剤の使用によって高選択的測定を可能に。
- 専用の蛍光検出装置を用いることで小型軽量化実現。
- 検体換算1 ppmのイミダクロプリドの分析が僅か20分で可能に。

仕様

外 寸／W:370×H:270×D:500mm
重 量／15kg
その他／電源AC100V



- お問い合わせ／東海光学株式会社 光機能事業部 課長 加藤祐史
e-mail : y-kato@tokaiopt.co.jp 電話番号 : 0564-45-8089 FAX : 0564-45-8001
- 特許の有無 : 無